

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

## 4&5

APRIL / MAY  
2010

### CONTENTS

アミーチ・カルテット演奏会	
MCOアカデミー……………	1
小さな聴き手のためのコンサート	
—ピーターとおおかみ……………	2
中村絢子	
デビュー50周年記念リサイタル……………	3
プロムナード・コンサートの小部屋……………	4
最近の公演から……………	4~5
インフォメーション……………	6



写真上;アミーチ・カルテット  
写真左:中井貴恵  
写真右:中村絢子 ©尾形正茂

## ハイドンの弦楽四重奏 — 豊潤なる音の泉

● 4/1(木) アミーチ・カルテット演奏会

● 4/2(金) ~ 4/5(月) MCOアカデミー: 公開セミナー & 発表演奏会

音楽家が舞台でみせる演奏者としての顔。そして次世代と向き合う教育者としての顔。この春お届けするのは、その両方をお見せしようという企画です! まずは今世界から熱い注目をあびているアミーチ・カルテットによる演奏会のご紹介を。

「アミーチ」(イタリア語で「友人」の意)という名を冠し、2004年に結成されたこの弦楽四重奏団。「僕らの友情が続く限り、共に演奏する」と公言する彼らがゴールとしているのは、常に生き生きとした自発性をもって音楽を奏で、その喜びを分かちあうことなのです。

メンバーは、多彩なバックグラウンドを持った第一級の演奏家たち! まずはイ・ムジチ全盛期の

コンサートマスターを務めた練達のヴァイオリニスト、フェデリコ・アゴ스티ーニ。同じくMCOでは際立った存在感を示す若手メンバー、川崎洋介。ヴィオラは、ソロに室内楽にと活躍するユネスコ賞受賞者、ジェームズ・クライツ。そしてチェロはMCOメンバーである原田禎夫。東京カルテットを30年リードした室内楽のベテランです。

プログラムはすべてハイドンの弦楽四重奏曲。「弦楽四重奏の父」ハイドンは、そこで何をしかけてくるだろう? そんな気持ちで演奏に耳を澄ませば、きっと想像以上に豊かな響きの世界が広がることでしょう。今回は、冒頭のたおやかな旋律が、朝に陽が昇る様を想わせる第78番(日の出)や、明

るく楽しい第38番(冗談)などをお届けします。

そして4月2日から5日には、ハイドンの弦楽四重奏をテーマに取り組む教育プロジェクト「MCOアカデミー」を開催します。さらなる飛躍を目指す若手演奏家たちが、アミーチと共にカルテットを組み、5日の発表演奏会(入場無料です!)に向けて熱いレッスンを繰り広げます。その模様は一般公開します(2日~4日:各日14時~16時)。彼らはどんなプロセスで音楽を創り、アミーチのメンバーは豊富な演奏経験やその人間性を通じて次世代に何を伝えるのか…。これは音楽作りの現場に立ち会える貴重なチャンス! どうぞ好奇心をふくらませてご来場ください。 **〈高巣〉**

### 「MCOアカデミー」にかける思い (談: 原田禎夫さん)

このアカデミーは若い人の育成が目的です。将来受講生が巣立ち、いつか水戸室内管弦楽団などで活躍してほしいという思いを持っています。やはり何をやるにも室内楽は一番勉強になりますし、特にハイドンの弦楽四重奏曲は「音楽の基礎」。ハイドンはその確立者で、80曲以上書いており、しかもそれぞれが全部違うのです。そのアイデアが素晴らしい。今の人はすぐシューベルトの「死と乙女」とかドヴォルザークの「アメリカ」など名前のついたような曲をやりたいが、本当の土台を作るためにハイドンを集中的にやるのはとてもいいことだと思っています。

最近、本当の意味で「音楽を作る」のではなく、単に技術的に優れているという演奏をする人が増えているように思います。だけどそういう演奏はやがて飽きられるし面白くない。音楽はコミュニケーションであり、聴く相手に何かを感じてもらいたい。そういうことが少し忘れ去られてきていると思います。だから一度原点に戻るといっても「まずハイドンを徹底してやる」とカルテットで決めたのです。家だって土台がしっかりしていないと崩れるでしょう。

それから近頃のメディアは、すぐセンセーショナルなことを求めますよね。例えば僕が知っている若いヴァイオリニストは、名前は知られているけどハイドンをモーツァルトなどは全く弾けず、「チャイコフスキーやショスタコーヴィチを演奏し

ていればいいじゃない」と言う。「それもいいけど、たぶんあなた5、6年したら演奏家として終わりだよ」と僕ははっきり伝えました。そういうソリストが実際多いので。彼女はその後ヨーロッパの講習会に来るようになりましたけどね。きちんと土台のある人がソロを演奏したり、ベートーヴェンやブラームス、バルトークを弾けばもっといい演奏になるはずですよ。

また今の世の中、目先のことが重視されて教育に時間やお金をかけないことが多いです。でも教育にきちんとお金をかければ、演奏家だけでなく将来の聴衆の育成にもつながります。だからこういう取り組みが水戸芸術館のホールでできるのはとても素晴らしいです。



工藤重典(フルート)



南方総子(オーボエ)



鈴木豊人(クラリネット)



猶井正幸(ホルン)



岡崎耕治(ファゴット)

## 小さな子どもたち、芸術館にあつまれ!

### ● 4/29(木・祝) 小さな聴き手のためのコンサート — ピーターとおおかみ

おいしいものは、大切な誰かと一緒に食べればもっとおいしく感じるように、よい音楽も大切な人と、例えば親子一緒に楽しめればその喜びは何倍にもふくらむはず…。そんな幸せなひとときをお届けする「小さな聴き手のためのコンサート—ピーターとおおかみ」。3歳以上であれば、どなたでも大歓迎! お子さんやお孫さんに音楽の贈り物をどうぞ!

#### 子どものための音楽物語〈ピーターと狼〉

プログラムのメインは〈ピーターと狼〉。そのメロディを聴けば「あっ、これね!」と誰もが思う、世界中で愛されている作品です。作曲家プロコフィエフは、10数年におよぶ外国生活をへて1936年にソ連に帰郷してから、子どものための作品を多数書きました。その一つがこの作品です。

作曲のきっかけは、二人の息子と一緒にモスクワ児童劇場へ出かけたこと。その劇場の支配人から「子どものために、ナレーションの入った音楽作品を作ってほしい」との依頼を受けたプロコフィエフは、その仕事を快諾し、わずか2週間たらずでスコアを書き上げたのです。またロシア民話から題材をえて作られたこのピーターと動物たちの冒険物語も、彼自身によるものです。

作曲者が「モスクワの子供たち、そして私の子供たちへのプレゼント」だと語る本作品の一番の特徴は、登場人物それぞれが、特定の楽器によるメロディで表されるところ。原曲はオーケストラで演奏されますが、今回の木管五重奏版でもその面白さは存分にお伝えできるはず。小鳥はフルート、あひるはオーボエ、猫はクラリネット、おじいさんはファゴットという具合に演奏しますので、ピーターたちの姿を自由に想像してみてくださいね。

#### 実力派揃いの木管五重奏

また、音楽会の第一部では、親子でお楽しみいただける木管五重奏の作品をご紹介します。ドビュッシーの組曲「子どもの領分」より愉快な〈ゴリウオックのケーキ・ウォーク〉や、民俗色豊かで活気あふれるバルトークの〈ルーマニア民俗舞曲〉など、どれも魅力的な小品ばかり! 出演は、水戸室内管弦楽団メンバーの工藤重典(フルート)をはじめ、南方総子(オーボエ)、鈴木豊人(クラリネット)、猶井正幸(ホルン)、岡崎耕治(ファゴット)という、オーケストラや室内

楽などで大活躍する精鋭たち。この日かぎりのアンサンブル、これは大人の方も聞き逃さません!

#### スペシャルゲスト・中井貴恵

そして今回(ピーターと狼)のナレーションを務めるのは、女優の中井貴恵さん。中井さんは現在、女優・エッセイストとしてだけでなく「大人と子供のための読みきかせの会」代表を務め、また音楽と朗読を合体した「音語り」という朗読公演も精力的に取り組んでいます。そんな中井さんに、ご自身の活動や音楽と朗読についてインタビューを行いましたので、どうぞお読みください。

ゴールデンウィーク前の休日。音楽との新鮮な出会いを待つ子どもたちはもちろん、普段はなかなか音楽会に足を運べないという大人の方も、ぜひご家族と一緒に遊びに来てください! **〈高巣〉**

#### ◆中井貴恵さんインタビュー

— 中井さんは現在、音楽と朗読を組み合わせた活動を積極的に行っているらしいです。こうした活動を始めたきっかけについて、教えてください。

子どもに読んで聞かせたある絵本がきっかけで、「大人と子供の読みきかせの会」を立ち上げました。実は私、もともと「子どもの絵本は大人が読んで面白いです」とは思っていなかったのです。私の子供にも、寝る時いろんな絵本を読み聞かせていましたが、それはただ子供を寝かせるための道具にすぎなくて。そんな中、きつねの子シリーズという有名な童話のうちの一つ、『つりばしゆらゆら』(あかね書房)という絵本に出会い、その絵本がはなつメッセージが、私に大きなインパクトを与えたのです。それで、童話の世界にも素晴らしい作品があるならば、声を出して読んでみたいと思いました。またそのメッセージを受けとめる必要があるのは、子どもだけではなく、後ろで読んでいる親なのだとことを強く感じたのです。ですので私たちの活動は子どもだけに聞かせるというより、その子どもに読み聞かせているお母さんに対して、私と同じような感動を伝えたいという感じで始めました。

— 中井さんの活動における音楽の役割とは?

「読み聞かせ」でも「音語り」でも、音楽の重要性は同じです。来た人に「朗読を聞いたのか、音楽を聞

いたのか…」ということが同じくらいの量で心に届くように作っています。私たちの「読み聞かせ」では、例えば絵本のこのページの時に音楽はこの小節で、あと何小節たったら絵本をここまで読むというふうに決めています。「音語り」でも、音楽と言葉と一緒に作った作品を創るためにかなり時間を費やしてから、人様の前で公演しています。

— 具体的には?

例えばある一つのたった十数ページの絵本の場合、私一人であれば2、3分で読んでしまえるものが、その場面ごとに音楽をちりばめてお話と一緒にやることで、10分くらいのものになりますよね。そして音楽であれば、誰が聞いても「光がきらきらしている感じ」や「風が冷たい」という感じを表現できる。ただの平らな本が、音楽という命を得ることで立体化するのです。

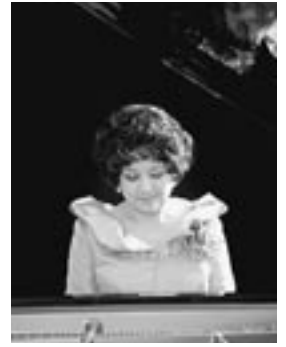
ですので、例えば読書が苦手な文字をみただけでは頭の中でなかなか絵を描くことができない子ども、もっと簡単にその話の世界を頭の中で映像化するお手伝いをするためにも、私の朗読で音楽は不可欠なのです。音楽と朗読がたっぶり、どっぶり相撲を組むみたいな感じでないかね。

— 〈ピーターと狼〉の魅力は?

それは何と言っても、一度聞いたら忘れられないあの音楽です! 一つ一つの楽器がそれぞれ動物を演じているようですね。本当に音楽が素晴らしく、どちらかといえば音楽が主体なので、朗読と音楽がいわば「相撲をとる」ような形にはならないかもしれません。けれど、語りと音楽あわせて、とにかく楽しい作品ですので、演奏家の方たちと一緒にこの音楽会を盛り上げたいですね。

— お客様へのメッセージ

最近では私は、昨年6月にNHK交響楽団との共演で、メンデルスゾーン(夏の夜の夢)というオーケストラと朗読が一体化した作品で語りを務める機会をいただき、とても大きな経験になりましたが、今回は水戸芸術館でこうして木管五重奏と共演させていただくことになり、とても嬉しく思っています。木管五重奏ですので、きっとお客様には一つ一つの楽器の音色を楽しんでいただけることでしょう。そして私がいることが、皆さんにもっと音楽を身近に感じていただくためのお手伝いになればいいなと思っています!



中村絃子 ©尾形正茂

## 新シリーズ「ショパンとシューマン 夢と憧れの軌跡」スタート!!

### ● 5/15(土) 中村絃子 デビュー 50周年記念リサイタル

近年、水戸芸術館では、「モーツァルトに捧げる音楽の花束」(2006年)、「BACHのための4人」(07年)、「ベートーヴェンは生きている」(08年)のように、大作曲家をモチーフにした演奏会シリーズを実施してきました。そして、今年は生誕200年を迎えるショパン(1810-1849)とシューマン(1810-1856)をテーマ作曲家として取り上げて、数々の演奏会を皆様にお届けします。

ショパンとシューマンと言えば、ロマン派を代表する作曲家。ロマン派というのは、音楽史ではバロック、古典派に続く18世紀末頃から20世紀初頭までの音楽に対して使われています。私たちは、この「ロマン」という言葉を形容詞にした「ロマンティック」という言葉を、夢見るような、甘美でうっとりしてしまうような雰囲気のあるときに使いますね。実はその語源は、中世ヨーロッパの「ロマン語」にまでさかのぼります。このロマン語で書かれた文学の最大の魅力は、冒険物語であった点で、自由に想像力を働かせて書かれていたことから、「ロマンティック」という言葉はやがて空想的、伝奇的、非現実的で奇妙なものを指すようになりました。そして芸術の世界でも、現実の世界を飛び越えて、自由に空想の翼を広げ、未来にも過去にも自由に往来し、大宇宙や人間離れた天才を追い求め、そしてそこに永遠を見出そうとする潮流が一気に押し寄せてきました。それが、「ロマン派」と呼ばれる芸術運動です。

どこまでも自由に、夢や憧れや永遠なるものを追い求めようとしたロマン派の作曲家ショパンとシューマンの音楽に、どうぞご注目ください!!

#### 中村絃子によるオール・ショパン・プログラム

この新シリーズの第1弾として開催するのが、オール・ショパン・プログラムによる「中村絃子ピアノ・リサイタル」です。水戸芸術館では、中村絃子さんに、開館以来、度々ステージにご登場いただけてきています。1990年3月の開館式典での演奏を皮切りに、90年から94まで5年もの長期間にわたり「中村絃子ピアノ公開レッスン」の講師を務めていただきました。さらに93年の「水戸カルテット第6回演奏会」や91年、2001年、05年にはリサイタルを行い、華麗な演奏を披露されています。そしてこの春、デビュー50周年記念

リサイタルを行うべく、中村絃子さんが水戸芸術館の舞台に再び戻ってきます。

中村絃子さんの今日を築いた最も大切なレパートリーが、ショパンのピアノ作品です。その賞賛の声は今日に至るまで決して止むことはありません。たとえば、2002年イタリアのベッリーニ劇場でのショパンの〈ピアノ協奏曲第1番〉の演奏については、「ピアノの音色は水晶のように澄み切って響き渡り、あたかも我々をショパンの時代に呼び戻してくれているのか、或いはショパンが現代の我々のもとに現われて語りかけてくれているのか…、そんな時」を超越した空気を醸し出していた(ラ・シチリア紙)と評されています。

それでは、中村絃子さんがデビュー50周年記念という大きな節目を迎えるにあたり準備した、今回のオール・ショパン・プログラムをご紹介します。1曲目は、〈ピアノ・ソナタ第2番 作品35“葬送”〉。1839年の夏に、愛するジョルジュ・サンドの故郷ノアンの館で作曲された作品です。ショパンは、当時すでに結核に冒され、かなり衰弱していました。しかし、ノアンの館でのサンドとの日々は、ショパンに安息を与え、元気を取り戻させるものでした。そうした生活の中で生まれたこの曲は、それまでのソナタの伝統を打ち破る先進的、独創的なものでした。あらゆるソナタの中でこれほど豊かな抒情性を湛えた作品は他にはないと言われている作品です。

2曲目は、〈ピアノ・ソナタ第2番 作品35“葬送”〉。1839年の夏に、愛するジョルジュ・サンドの故郷ノアンの館で作曲された作品です。ショパンは、当時すでに結核に冒され、かなり衰弱していました。しかし、ノアンの館でのサンドとの日々は、ショパンに安息を与え、元気を取り戻させるものでした。そうした生活の中で生まれたこの曲は、それまでのソナタの伝統を打ち破る先進的、独創的なものでした。あらゆるソナタの中でこれほど豊かな抒情性を湛えた作品は他にはないと言われている作品です。

続いて、〈4つのマズルカ 作品30〉。マズルカは、ショパンの故郷ポーランドの代表的な民俗舞曲です。ショパンは、この素朴な舞曲を詩情豊かな芸術的なピアノ曲へと、昇華させました。ショパンは生涯を通してマズルカを作曲しましたが、今回は、ショパンの創作の中期にあたる1836年に作曲された4曲から成る作品30のマズルカが取り上げられます。マリア・ヴォジンスカに恋心を抱き求婚するものの、良い返事は得られず、辛い気持ちをショパンが抱いていた頃の作品です。

3曲目は、〈ポロネーズ 第3番 作品40の1“軍隊”〉。ポロネーズもマズルカ同様に、ポーランドの民俗舞曲のひとつです。当時のポーランドは、ロシア、オーストリア、プロイセンといった大国によ

る領土分割の危機にさらされていて、ショパンはそうした状況の中で自らの民族精神を表明すべく、ポロネーズやマズルカ作品を作曲していきました。〈ポロネーズ 第3番〉は、1838～39年に作曲された、「軍隊ポロネーズ」の名で親しまれている作品です。豪快で勇敢さを感じさせる主題が使われていることから「軍隊」という副題が付けられました。

4曲目、前半の最後に演奏されるのは、〈スケルツォ 第2番 作品31〉。スケルツォは、「諧謔曲」とも訳され、一般的には急速で軽快な3拍子の器楽曲を指します。しかし、伝統に縛られることなくショパンが独自の楽曲として築き上げたスケルツォは、元来のユーモラスな側面は追いやられ、この作曲家の心の底が赤裸々に吐露されています。〈スケルツォ 第2番〉が作曲された1837年は、ショパンにとって屈辱的な出来事があった年でした。婚約者マリアの両親ヴォジンスカ伯爵夫妻から、婚約の解消が言い渡されたのです。この曲は、いわばそうした逆境を振り払うかのようにして書かれた、激しさと優しさが同居する傑作です。

演奏会の後半に取り上げられるのが、〈24の前奏曲 作品28〉です。1838年秋、ショパンとサンドは、パリでの2人に対する中傷や非難から逃れるために、マジョルカ島を訪れています。その旅行費用に充てられたのが、この〈24の前奏曲〉の出版社からの前金でした。そして、このマジョルカ島で、この曲の最後の仕上げが行われました。この作品は、弟子やピアノ学習者のための練習曲として構想されています。24の調性すべてを用いた24曲から成り、それぞれが固有の性格をもっています。ショパンが創案したピアノ技法のあらゆる要素が盛り込まれた、ロマン派の抒情的な小品の最高傑作のひとつとされている作品です。

デビュー50周年を迎え、ロマンの深奥をさらに究めようとする中村絃子自身のオール・ショパン・プログラムによる演奏を、どうぞ堪能ください。

〈中村〉

## プロムナード・コンサートの小部屋

- 4/25(日) 武久源造 スペシャル演奏会
- 5/2(日) ゴールデンウィーク・スペシャル

週末の午後に入場無料でお楽しみいただいている「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」のこの春のスペシャル・プログラム2本をご紹介します。

4月25日は、わが国を代表するオルガニストのひとりである武久源造さんをお招きしてのスペシャル演奏会です。武久さんは水戸芸術館では、1997年と2005年にリサイタルを行い、魂が揺さぶられるような演奏を聴かせてくれました。今回は、水戸芸術館の大オルガンの演奏とともに、武久さん所有のスイス・チロル地方のクールブルク城に保存されている16世紀の家庭用オルガンの復元楽器の演奏をお聴きいた

だきます。まだ電気が発明される以前の楽器ですから、この復元楽器は、パイプに空気を送りこむためにふいごが付いていて、それを動かしながら演奏が行われます。さて、どのような音がするのか？ お楽しみください。

5月2日は、お子さんから大人までご家族でもお楽しみいただける〈ゴールデンウィーク・スペシャル〉! 出演は、昨年10月の「ちょっとお昼にクラシック EXTRA2」公演に出演したオルガニスト・グループTRMのひとり、山口綾規さん。山口さんはパイプオルガンに加え、ハモンドオルガンなど電子オルガンの名手でもあり、クラシックからジャズ、ポピュラーまで、ジャンルの垣根を超えたレパートリーを誇ります。当日はパイプオルガンの名曲から、山口さんならではのポピュラー作品まで、ヴァリエティ豊かにお贈りします。 《中村》

## 最近の公演から

JANUARY  
FEBRUARY



1



2



3



4



5



6

### モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会[第5回] 演奏とお話:野平一郎(1月23日)

1年に2回ずつ、3年で全6回の公演を通して、モーツァルトのピアノ・ソナタ全18曲を、野平一郎さんの演奏とお話で、年代順にご紹介するシリーズ。いよいよ最終年に突入した。今回は、モーツァルトの没する3年前、30歳の時に書かれた〈ソナタ 第15番 K.533 + K.494〉に加え、ウィーン時代の後半に作曲されたピアノ独奏のための小品2曲、さらに当時のウィーンでたいへん人気のあった2台のピアノのための作品3曲が取り上げられた。2台作品の共演は、昨年同シリーズ第3回の4手ピアノ作品でも野平さんと息の合った演奏を披露してくれた東誠三さん。アンコールとして、プログラムの最後の作品(2台のピアノのためのソナタ K.448 (375a))の第3楽章が再び演奏された。《中村》

アンケートから●モーツァルトの円熟の境地と野平一郎先生も同様に熟成された味わい深い感動を覚えた名演奏でした。(無記名の方) ●2台のピアノのためのソナタ K.448 (375a) は、私の大好きな曲です。ピアノの音が重なり合って、素晴らしい演奏でした。200年余りの時空を超えて、モーツァルトの予約演奏会を聴いているような幸せな気持ちになりました。(無記名の方) ●前半の(ロンド)など、短調の曲が胸にしみ入るようで良かったです。野平さん自身の解説もわかりやすく良かったです。後半のデュオでは、2台ならではのスケール感があり、まさに華麗なる「共演」を味わうことができました。(水戸市:T.M.さん)

### ハインツ・ホリガーと仲間たち

#### — スイス・チェンバー・ソロイスト(2月7日)

今年71歳を迎えるオーボエの巨匠ハインツ・ホリガーとスイス人の音楽仲間たちによる「スイス・チェンバー・ソロイスト」の演奏会。当日の練習では、メンバーはドイツ語やフランス語で自由闊達に意見をかわしながら、開場間際まで丁寧なハーサルを行っていた。プログラムは、ベートーヴェンとモーツァルトの作品の間に、カーター、ケルターボルトン、ゴードィベールという現代の作曲家の作品をおいた構成。古典派の曲でも現代の曲でも、それぞ

れの作品の輝きを余すところなく表現する、彼らの卓越した音楽性が冴えわたる刺激的な2時間だった。熱烈な拍手にこたえて演奏されたアンコール曲は、J.C.バッハの〈6つの五重奏曲より第2番ト長調〉。終演後、メンバーはお客様が熱心に演奏を聴いて下さったことや、客席に若い方がたくさんいたことを高揚した様子で話していた。《高巣》  
アンケートから●私もホリガーさんのようなきれいなオーボエの音が出せるよう、これからいっぱい練習したい。(無記名の方) ●古典から現代までの音楽を体験でき、充実したコンサートだった。マエストロ・ホリガー氏が今なお現役演奏者として活躍し、すばらしい演奏を聴かせてくれたことに敬意を表したい。(水戸市:T.M.さん) ●1970年代初頭、知り合いからもらった1枚のレコードで、ホリガー氏のオーボエの音色に魅了されて以来、華やかな音色から哀愁を帯びた音色まで多彩な表情を見せるオーボエの音色が大好きになりました。40年余り後に氏の生演奏を初めて聴けて感激です。(つくば市:T.O.さん) ●とりわけ後半の曲目が面白く、演奏者それぞれの超絶技巧も目を見張るもので、大変面白い刺激的なひとときだった。(水戸市:T.T.さん) ●ひととき異次元を浮遊してきたような心地良い音の波に身体中の細胞が喜んでいました。絶妙な演奏を生で聴くことができ幸せでした。(川越市の方) ●初めて聴く曲ばかりでしたが、とても良かったです。ひそやかな弱音にも、音と音のつながり目にある無音(間)にも音楽が響いていました。(日立市:Y.O.さん)

### 中学生のための音楽鑑賞会(2月17、18、19日)

中学生にコンサートホールでクラシック音楽の演奏に触れていただこうと毎年開催している鑑賞会。水戸市立中学校全15校と茨城大学附属中学校、茨城中学校、英宏中学校の1年生、およそ2,800人をお招きした。出演者は当館専属楽団・ATMアンサンブルのメンバーの小林美恵さん(ヴァイオリン)、亀井良信さん(クラリネット)、熊澤雅樹さん(チェロ)、小坂圭太さん(ピアノ)。それぞれの楽器についてなどのトークを挟みながら、独奏曲からアンサンブル作品まで、多彩な作品をお楽しみいただいた。また

1~2.モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会[第5回]

3~4.ハインツ・ホリガーと仲間たち — スイス・チェンバー・ソロイスト

5~6.中学生のための音楽鑑賞会



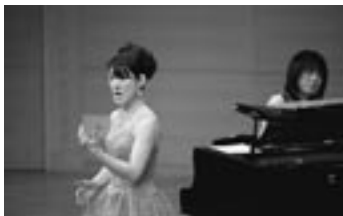
1



2



3



4



5



6



7



8

終演後には、エントランスホールでパイプオルガンによるバッハの〈小フーガ ト短調 BWV578〉の演奏を鑑賞した。オルガン演奏は三原麻里さん。《中村》中学生のアンケートから●なかなか、こういう機会ではしか聴けないので、じっくり聴けてよかったです。〈ギズガンドリエ〉は、クラリネットの指使いがすごくて見とれていました。パイプオルガンの演奏は、足も使って弾いていたのでビックリしました! (千波中) ●すごく、すごく楽しかった。ヴァイオリンのメロディが気に入った。手の動きもすごくなめらかだった。(見川中) ●この会でたくさんの曲を聴き、音楽に対する親しみが生まれました。(双葉台中) ●ヴァイオリン、チェロの弦楽器は、音が深くてすてきな音楽だった。ピアノはずっと弾いていて、すごいと思った。クラリネットは連符(早い旋律)がきれいで、高音も低音もとてもすてきだった。(第五中)

### ちょっとお昼にクラシック9(2月19日)

上記「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ出演者・内容で、平日の昼間にお楽しみいただくコンサートとして開催しているのが「ちょっとお昼にクラシック」シリーズ。今回も多数のお客様にご来店いただきました。今後はさらにパワーアップしてお贈りする予定です。どうぞご期待ください! 《中村》アンケートから●お昼のあとで、心地よい眠りの中に半分いたが、〈タイスの瞑想曲〉と〈鳥の歌〉がよかった。(水戸市:K.A.さん) ●短時間で気軽に安く聞けるのはとても良いと思う。(無記名の方) ●それぞれの楽器の豊かな音色に導かれた素晴らしいアンサンブルは、実に絶妙でした。カザルスの〈鳥の歌〉、心が洗われる思いがし、やさしさに満ちた音楽でした。バルトークの作品は、難曲でありながら楽しく、感激です。(無記名の方)

### 茨城音楽文化振興会

#### アーリースプリングコンサート(2月21日)

毎年開催の定期演奏会に加え、学校や地域集会への訪問コンサートなどを通じて、地元で着実に音楽を根づかせている茨城音楽文化振興会が、第8回となる定期演奏会“アーリースプリングコンサート”を水戸芸術館で開催しました。

プログラムは、木管楽器と声楽、ピアノ独奏を中心とした編成で組まれました。出演したのは、出演順に、市毛里香さん(フルート)、古橋充子さん(クラリネット)、倉持香織さん(ファゴット)、瀧家尚美さん(ピアノ)、小野智恵さん(ピアノ)、手塚久美子さん(ソプラノ)、根子留美さん(ソプラノ)、市村真美さん(ピアノ)、久野勢津子さん(ピアノ)、片岡麻衣さん(ピアノ)、川井理香さん(ピアノ)、栗田美奈子さん(サクソフォーン)。ヴァラエティに富んだプログラムと磨きのかかった演奏で、ひと足早い春のあたたかさを詰めかけた聴衆に届けていました。《関根》アンケートから●曲、出演者がヴァラエティに富んでいたのが、楽しめた。(無記名の方) ●よく知らない作曲家の曲なども聴くことができ、とても良かったです。(無記名の方) ●とても参考になるいい演

奏でした。また来たいと思いました。(小美玉市:C.Y.さん) ●たのしみでした。春の足音が聞こえてきました。(日立市:Y.F.さん) ●楽しいプログラムで良かったです。一度にピアノ、フルート、クラリネット、ファゴット、歌と聴くことができ、楽しく、演奏も良かったです。(無記名の方)

### 山口泉恵 ピアノ・リサイタル(2月27日)

石岡市在住のピアニスト・山口泉恵さんによる、水戸芸術館では2度目のピアノ・ソロ・リサイタル。前回はショパンとシューマンという二人の作曲家に焦点をそぼった演奏会だったが、今回山口さんは「人々に寄り添い、共に哀しみ、時に慰め、時に励ましてくれる音楽をしみじみと奏でたい」という想いから、演奏会に「慈の愛、悲の愛」というテーマを据え、それにふさわしく心の深部に響くような曲の数々を並べた。その意欲的なプログラムはまず、J.S.バッハのバルティータ第2番に始まり、次のシューベルトの即興曲第1番と第3番では、叙情的な美しさが描かれた。後半、ブラームス〈3つの間奏曲〉での哀愁を感じさせる演奏に続き、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第32番へ。その渾身の演奏に、客席から力強く温かい拍手が贈られた。アンコールはJ.S.バッハの〈主よ、人の望みの喜びよ〉BWV147。《高巣》

アンケートから●回を重ねる毎に素晴らしい演奏でした。曲の解説も、丁寧に詳しくしており、聴いている方も理解でき、よかったのではないかと思います。(石岡市:S.S.さん) ●バッハが自分の心に最も響いた。(ひたちなか市:Y.O.さん) ●大人っぽくて奥深く、とても素晴らしい演奏でした。もっとたくさんリサイタルして下さい!(無記名の方) ●聴きに来て大変良かったです。ありがとうございました。(無記名の方)

### 合唱セミナー 2010(2月28日)

好評だった昨年に引き続き、合唱指揮者としてますます活躍の幅を広げている藤井宏樹氏を講師にお招きして開催しました。

午前中は、モーツァルト晩年の宗教曲〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉の練習。各声部を歌ったり、田中直子氏のピアノ演奏で音の流れを確認したりしながら、モーツァルトが最小限の音と和声の変化で、いかに最大限の表現力を備えた音楽を書いたのかを解き明かしました。参加者の方々は、あらためてモーツァルトの音楽の凄みを感じていたようです。

午後は、寺嶋陸也編曲の「混声合唱とピアノのための〈ふるさと〉〜明治・大正・昭和の唱歌編曲集」の練習。〈海〉〈夕焼小焼〉〈冬の夜〉〈荒城の月〉〈野菊〉〈故郷〉〈村の鍛冶屋〉の7曲を、歌われる景色や情緒を思い出しながら練習しました。藤井氏は、すばらしい指揮ぶりや巧みな話術で、これらの唱歌で歌われる日本の懐かしい時代と風景への旅に、参加者を連れて行ってくれました。最後は、高校生の参加者がステージに上がり、全員で〈荒城の月〉を歌って締めくくりました。《関根》

- 1~2.ちょっとお昼にクラシック 9
- 3~4.茨城音楽文化振興会 アーリースプリングコンサート
- 5~6.山口泉恵 ピアノ・リサイタル
- 7~8.合唱セミナー 2010



## information

- チケットに関するお問い合わせ  
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ  
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

### 「茨城の名手・名歌手たち 第21回」出演者オーディション

11月27日(土)に開催予定の演奏会に先立ち、出演者オーディションを行います。詳細は、応募要項をご覧ください。

開催日:2010年6月13日(日)

応募受付期間:2010年5月4日(火)～5月18日(火)

審査対象部門:鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器(以上、ソロ)、  
邦楽アンサンブル(2～5人まで)

資料請求方法:住所・氏名を明記し80円切手を貼った返信用封筒(定形)と、受験する楽器(編成)を書いたメモを同封の上、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンター(9:30～18:00月曜休館)にお申し出下さい。また、水戸芸術館のホームページからもダウンロードできます。

お問い合わせ先:〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

水戸芸術館音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係(担当:関根・高巢)

### 茨城県の演奏家による演奏会企画を募集します。

平成23年度の茨城の演奏家による演奏会企画を下記の要領で募集いたします。

#### 【応募要項請求方法】

- ①水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター(9:30～18:00月曜休館)にて直接入手
- ②80円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛て郵送
- ③水戸芸術館ホームページ[<http://www.arttowermito.or.jp/>]よりダウンロード

#### 【応募対象】

- 個人:茨城県内の住民票をお持ちの方
- 団体:茨城県を中心に活動されている団体
- ※ただし、平成22年度の「茨城の演奏家による演奏会企画」にご出演された方は応募できません。

【受付期間】2010年5月11日(火)～6月11日(金)[当日必着]

【結果の発表】2010年9月頃

【開催時期】平成23年度(2011年4月～2012年3月)

#### 【提出資料】

- ①所定の申込用紙
- ②これまでの演奏歴を示す資料(演奏会チラシ等)
- ③住民票の写し
- ④2009年6月1日以降の演奏のデモ・テープ(またはCD、MD、DAT)
- ⑤返信用封筒1部(80円切手を貼付し、本人の住所・氏名を明記すること)

#### 【お問い合わせ】

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
水戸芸術館 音楽部門「演奏会企画」係  
TEL.029-227-8118 / FAX.029-227-8130(担当:中村)

### チケット・インフォメーション

#### 〈4月10日(土)発売分〉

◎水戸室内管弦楽団 第79回定期演奏会  
7/3日(土)18:30開演、7/4日(日)14:00開演  
料金(全席指定):S席¥8,000/A席¥6,500/B席¥5,000

※水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会には、4/6(火)より運営維持会員、4/7(水)より友の会会員の先行電話予約がありますので、4/10(土)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

### これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎アミーチ・カルテット演奏会 ハイドン弦楽四重奏曲  
全曲演奏プロジェクト vol.2……………4/1(木)中央△、左右○

◎小さな聴き手のためのコンサート—  
ピーターとおおかみ……………4/29(木・祝)中央×、左右○

◎中村紘子 デビュー50周年記念リサイタル……………5/15(土)中央×、左右・裏○

◎リゲティの肖像……………6/20(日)中央○、左右○

※3/16(火)現在の状況です。  
※公演当日に残席がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。  
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な4・5月のスケジュール

### コンサートホールATM

■アミーチ・カルテット演奏会 ハイドン弦楽四重奏曲全曲演奏プロジェクト vol.2  
4/1(木)18:30開演

料金(全席指定):一般¥2,500 大学生¥1,000 小中高生¥500

■MCOアカデミー

公開セミナー:4/2(金)～4/4(日)各日14:00～16:00 入場無料

発表演奏会:4/5(月)18:30開演 入場無料

■立川志の輔 独演会

4/24(土)14:30開演 料金(全席指定):S席¥3,500 A席¥3,000 B席¥2,500

■小さな聴き手のためのコンサート— ピーターとおおかみ

4/29(木・祝)14:00開演

料金(全席指定):大人¥2,500 小人(3歳以上12歳以下)¥1,000

■中村紘子 デビュー50周年記念リサイタル

5/15(土)18:30開演 料金(全席指定):A¥4,500 B¥4,000

### エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

4月:17日(土)、18日(日) 5月:9日(日)、22日(土)、29日(土)

□(武久源造 スペシャル演奏会)4月25日(日)(16世紀のオルガンをご紹介します。)

□(ゴールデンウィーク・スペシャル)親子で楽しむオルガン・コンサート

5月2日(日)オルガン:山口綾規

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

### ACM劇場

■白石加代子の「百物語」シリーズ 第二十七夜「銀河鉄道の夜」

4/2(金)19:00開演 料金(全席指定):A席¥4,500 B席¥3,000

■野村万作抄18「無布施経」「千鳥」

4/17(土)18:30開演

料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000

■劇団唐組(新作)水戸公演「百人町」

5/14(金)、15(土)、16(日)各日19:00開演

料金(全席自由):一般¥3,000 団体(10名以上)¥2,700 学生¥2,000

会場:水戸芸術館広場特設紅テント(雨天決行)

### 現代美術センター

■リフレクション——映像が見せるもうひとつの世界”

2/6(土)～5/9(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 ※3/22、5/3(月・祝)は開館、翌3/23(火)休館

入場料:一般800円、団体(20名以上)600円

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

■第43回水戸市芸術祭 いけばな展

5/21(金)～23(日)9:30～18:00(入場は17:30まで) 入場無料

※最終日は入場16:30まで、17:00開場。

## 茨城の主な4月の演奏会 ※有料公演のみ

◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■久保陽子・弘中孝 ジョイント・コンサート 4/24(土)18:00開演

◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■～KYO～響・共・協 田中直子伴奏リサイタル 4/25(日)14:00開演

■武蔵野音楽大学同窓会茨城支部 第38回定期演奏会 4/29(木)14:00開演

◆日立シビックセンター TEL/0294(24)7720

■日立シビックセンター音楽シリーズ2010

第20回ひたち出身者によるコンサート「音楽の園」4/11(日)14:00開演

■日立シビックセンター音楽シリーズ2010

「合唱コンサート2010」4/25(日)15:00開演

◆ギター文化会館 TEL/0299(46)2457

■小原聖子 コンサートとマスタークラス 4/11(日)13:00開演

■莊村清志 ギターリサイタル 4/25(日)15:00開演

◆ノバホール TEL/029(852)5881

■つくば学園都市オーケストラ第45回定期演奏会 4/11日(日)14:00開演

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」 2010年3月発行 第148号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail[[ankmr@arttowermito.or.jp](mailto:ankmr@arttowermito.or.jp)] URL[<http://www.arttowermito.or.jp/>]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):大金純子 佐川真美 関根哲也 高巢真樹 中村晃

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…  
リゲティ&MCO!!